

他人を気遣う日本人気質

川越ペンクラブが同人誌「武蔵野ペン」を年4回発行しています。6月に出た145号に在日韓国人の洪栄基(ホンヨンキ)さんが東日本大震災について韓国メディアが報じた日本人気質を紹介していました。

「避難所の生活は言い尽くせない不便が伴います。食料・水・物の不足、混乱・病気・寒い寝床・家族の安否・気になる被害状況・目から消えない悪夢と恐怖・明日への不安、まさにパニックの連鎖です。

日本人特有の生活文化は他人に迷惑をかけない気遣い——差し出された一杯のうどんをどうぞお先にと隣の人に勧め、そしてそのうどんが5人先、10人先へと廻されていきます。毛布も一緒にかぶり、横寝をして寝床を譲り合います。給水所やパン配給の長い列にも、我先きにはなく、並んで順番を待ちます。割り込みも、わめきも、怒鳴り声も、争いも起りません。

子どもを亡くした母、高齢の父を亡くした娘が、静かに涙を拭いています。自分だけが家族を亡くしたのではない、自分が泣くと皆さんがもっと悲しむからと気を配り、声無き涙で悲しみをこらえています。この気遣い文化が、千人、一万人という避難生活の秩序を守っているのです。

外国人には度が過ぎているのではと映る日本人の気遣い文化——でもそれは他人を思いやる愛、人間愛です。これがマスメディアを通じて全世界へ伝えられ、世界中の人を感動させ、甦れ、日本！と支援の原動力になっているのではないのでしょうか」

韓国の方たちがこのように日本人を見てくれているのですね。有難いことです。しかし私ははっと気がつきました。現在日本には、一世、二世、三世、四世の在日韓国・朝鮮人が80万人以上暮らして居られます。そして今なお様々な差別・偏見を受けて様々な葛藤を味わっておられるのです。どうしてでしょうか。

敗戦まで35年間、日本は韓国を強制併合し、植民地支配しました。この時の日本人と韓国・朝鮮人との不平等な立場が、優れている——劣っている、貴い——卑しいという差別意識を日本人の心に植え付け、支配者としての優越感に立って、韓国・朝鮮

民族の誇りを数々と傷つけました。そしてその時に植え付けられた差別意識が、私たちの心にいまだにあるからではないでしょうか。

TV や新聞・雑誌でも活躍している東大教授姜尚中(カンサンジュン)さんも在日二世です。自分の内面をこう書いています。「ともすると不安にかられやすい精神的弱さ、他者の眼差しに過敏になりやすい心性。在日としての我が身に対するやるせなさや怒りのような感情を吐き出せる友もいない孤立感が、自分を憂鬱にしていた。世界で一番好きな国日本、同時に一番嫌いな日本。」 私たちはこのような苦悩に気付いているでしょうか。

韓国のメディアが感嘆して報道している日本人の気遣い文化を、私たちは一番身近な隣人の在日の方々にも向けてはしません。私たちの気遣いは、日本人同士すなわち身内の倫理でしかないのです。

8月13日の新聞に、日本軍がアジア、太平洋地域で行なった15年にわたる戦争で犠牲になったアジア諸国の民間人死者数が報じられていました。中国人1000万人インドネシア人400万人インド人350万人ベトナム人200万人フィリピン人111万人、朝鮮半島人20万人ビルマ人15万人シンガポール・マレーシア人10万人、日本人80万人(広島長崎21万人、沖縄戦9.4万人を含む)総計約2200万人。朝鮮半島人が少ないのは、日本軍の兵士・軍属として戦死している人が多いからでしょう。

今回の東日本大震災の死者行方不明者は約2万人余です。それでもこれだけの大きな被害を社会全体として受けているのです。としますと、民間人死者総数2200万人とは、社会全体としては東日本大震災の1000倍に相当する大被害を、日本軍がアジア諸国に与えたということになります。今私たちが味わっている災害の大きな辛さを1000回もアジア各地で惹き起こしたのです。何と大きな罪を犯したことでしょうか。

私は大震災の被害に直面しつつ、戦争の悪の大きさをあらためて心に刻み、非戦・平和への歩みを進めなければと思いました。

“貴方たちは真実と平和を愛さねばならない” 聖書